

学校経営に関する数値は様々あるが、私は「入口」「中」「出口」の三つを特に重視している。
「入口」は高校入試倍率のことで中学生にとって入りたい魅力ある学校になっているのかの指標、「中」は在校生の学校生活における満足度のことで立川高校に入って良かったと思っているのかの指標、そして「出口」は進路状況・大学合格実績のことで学習・生活・進路指導の三要素を含む学校の総合的な教育力を示す指標であると考えている。よって、これらの数値が向上して目標を上回るのであれば、学校経営はうまくいっている。反対に目標に届かないのであれば、学校経営に課題が残っていると私は判断している。

今年度は令和4年度に都立高校初の理数科（創造理数科）が設置されて初めての卒業生を出す年度となったため、進路状況については校内だけでなく外部の学校関係者も関心が高かったと思われる。今年度は難関国公立大学現役合格者が25名（うち理数科1クラスで9名合格）に達し、本校が進学指導重点校に指定されて以来、最も多くなった。また、今年度の高校入試は、普通科・理数科とも応募者数が増加して倍率は大きく向上し、学校満足度もここ数年では最も高くなった。これらの数値結果から、総じて今年度の学校経営は比較的うまく展開できたと評価している。しかし、細かく見ていくと目標未達成の項目も多く、まだ改善の余地、つまり「のびしろ」は残っていると捉えている。次年度以降も学校経営の更なる改善と目標達成に向けた取組を進め、都民の期待と信頼に応える学校作りを推進していきたい。

I 今年度の取組目標等に関する自己評価

1. 【重点目標・数値目標】の達成状況（過去5年間の推移）

(1) 進路指導に関すること

- 大学入学共通テスト受験者のうちフル型受験者数 240名以上
(R2:231 R3:244 R4:244 R5:231 R6:228) 未達成
- 難関国公立大学(東大・京大・一橋大・東工大・医学部医学科)現役合格者数 25名以上
(R2:14 R3:17 R4:21 R5:19 R6:25) 達成
- 旧帝大(東大・京大・北大・東北大・名大・阪大・九大) 現役合格者数 25名以上
(R2:11 R3:18 R4:25 R5:16 R6:18) 未達成
- 国公立大学 学校推薦型・総合型選抜 現役合格者数 15名以上
(H31:5 R2:14 R3:9 R4:12 R5:6 R6:11) 未達成

(2) 学校生活に関すること

- 学校評価アンケートで「入学して良かった」と回答する生徒の割合 90%以上
(R2:90.2 R3:93.5 R4:89.9 R5:92.8 R6:95.0) 達成
- 平日の家庭での予・復習時間 1年生:150分以上 2年生:150分以上
1年生 (R2:141 R3:112.3 R4:151.0 R5:85.6 R6:98.2) 未達成
2年生 (R2:151 R3:142.2 R4:130.7 R5:95.5 R6:98.1) 未達成

(3) 入学選抜に関すること

- 【普通科】入学者選抜の最終応募倍率 推薦:(普)3.00倍、一次:(普)2.00倍
推薦 (R2:3.98 R3:3.33 R4:3.50 R5:2.95 R6:3.43) 達成
一次 (R2:1.63 R3:1.95 R4:1.96 R5:1.86 R6:2.22) 達成
※R3以降の普通科一次の倍率=(普通科専願者数+普通科・理数科併願者数)÷普通科募集人員数
- 【理数科】入学者選抜の最終応募倍率 推薦:(理)1.50 一次:(理)3.00倍
推薦 (R3:理 2.00 R4:理 1.50 R5:理 1.13 R6:理 1.13) 未達成
一次 (R3:理 3.70 R4:理 3.66 R5:理 2.71 R6:理 4.51) 達成
※理数科一次の倍率=(理数科専願者数+普通科・理数科併願者数)÷理数科募集人員数

2. 【重点目標達成のための具体的方策】についての自己評価(4段階)

(自己評価の目安) A:達成 B:ほぼ達成 C:やや不十分 D:不十分

(1) 学習指導 :質の高い授業実践と自学自習の態度の育成

- ア 年間を通して旧帝大レベルの大学入試問題研究に取り組み、授業・講習に活かす。(B)
- イ 国公立二次記述対策のため、適切な問いがあり思考力・判断力・表現力が鍛えられる授業を行う。(B)
- ウ 学習意欲向上と科学的思考力の育成を図るため、SSHの取組(課題研究、国際性の育成、本物体験、教科教育)を全教職員で進める。(B)
- エ 全教員が、(他教科を含む)年間3回以上の相互授業参観を行い、授業改善に取り組む。(B)

(2) 進路指導 :高い目標を目指す集団作り

- ア 進路指導計画に基づき、個人面談又は三者面談を年間4回以上実施する。(B)
- イ 自習室の活用時間を午後8時まで延長し、一日あたりの平均使用人数を現状の1.2倍に増加させる。(A)
- ウ 1・2年生とも平日平均150分以上、週当たり20時間以上の学習時間を確保するよう学習時間調査等を活用して指導する。(C)

(3) 生徒指導 :自主自律の精神・多様性を認める意識・態度を涵養する生徒指導

- ア 多様性を認め、相手の立場に立った言動のできる生徒を育成し、いじめ0を達成する。(A)
- イ 生徒の自主性を重んじ、支える立場での生徒指導を徹底する。(B)
- ウ 遅刻防止、挨拶の徹底など、基本的生活習慣の確立に向けた指導を全員で行う。(C)
- エ 配慮が必要な生徒に関する情報を全教職員で共有し、個別案件に対しての適切な対応体制を作る。(B)

(4) 特別活動 :学習の上に成り立つ部活動・学校行事等の実践

- ア 部活動顧問・指導員及び行事担当教員は今年度の活動目標を定め、目標達成に向けて取り組む。(B)
- イ 学習の上に成り立つ部活動・学校行事であることを理解させ、集中とメリハリを意識させて、学習・部活動・学校行事等の両立を図る指導を徹底する。(B)

(5) 広報・募集対策 :効果的な広報活動の展開

- ア 広報活動に全教職員が関わり、応募倍率の向上に努める。(A)
- イ 学校ホームページへの記事掲載の内容と時期を計画し、更新回数180回以上を達成する。(A)
- ウ 学校説明会等では校内美化を強化し、生徒会や部活動生徒を活用する。(B)
- エ 創造理数科のPRを強化する。(A)

(6) 学校運営・組織体制 :教職員一丸となった組織的・計画的な学校運営

- ア スクールカウンセラー2名体制を効果的に活用し、担任と協力して生徒のメンタルケアに努める。(B)
- イ PTA・同窓会(紫芳会)との連携を強め、生徒へのサポート体制を確実に維持する。(A)
- ウ 保有個人情報の取扱い・入学者選抜業務については、細心の注意を払い、事故ゼロとする。(A)
- エ 教職員の働き方改革、well-beingを強く意識させ、残業時間の減少を図る。(B)

Ⅱ 次年度以降の課題とそれに対する改善策

	課題	改善策
(1) 学習指導	進学指導重点校として、難関大入試に対応できる質の高い授業を実践する。	自校作成問題・推薦入試問題の質の向上、難関国公立大学等の入試問題研究、難関大に対応した教科指導力の向上、問いを中心とした思考力・判断力・表現力を育む探究的な授業実践、国公立二次及び難関私大入試に対応できる読解力・記述力の育成
	S S H スーパーサイエンスハイスクール（Ⅱ期目）の取組を充実させ、探究能力や国際性の育成を図る。	自作の CAN-DO リストの活用による課題研究の質の向上、大学や研究機関等との連携の強化、フィールドワーク・体験実習・講演会等の S S H 企画の充実、研究発表の機会創出、科学オリンピック等への参加奨励、S S H 海外研修（アメリカ）・海外学校間交流（タイ）・S S コミュニケーション英語の充実
	創造理数科の特色ある教育実践により、将来の科学技術系人材の基礎を育む。	理数系科目の授業充実、質の高い課題研究の実施、独自英語プログラムの実施、多彩な企画の実施
	I C T 個人端末を活用し、個別最適化された学び・協働的な学びを実現する。	I C T 機器・個人端末活用を促す教員研修、個別最適化された学びによる学習効果の向上、授業実践の充実 I C T を活用した授業の相互参観、I C T 支援員の効果的な活用
(2) 進路指導	第一志望を諦めさせない進路指導を行う。	学年・進路部・教科間の連携強化、面談（二者・三者）の充実、進路講演会・社会人講話の充実、大学受験情報の迅速かつ確実な提供、個人の3年間の成績データに基づくケース会議・指導・激励、
	進学指導重点校としての目標を安定的に達成する。	高い進路目標の設定、高い志をもつ生徒集団の構築、自習室等の学習環境の整備、総合型選抜入試への対応、模試結果の確実なフィードバックと指導への反映、大学入学共通テストのフル型受験の奨励
(3) 生活指導	基本的生活習慣を確立する。	クラス・学年・全校集会等での効果的な指導の実践、個別指導の徹底、時間管理の指導、S N S ルール厳守の徹底
	ダイバーシティ意識を醸成し、合理的な配慮に基づく教育活動を実現する。	特別支援教育の理解、多様性を認める教育の推進、いじめ防止対策、カウンセリング機能の強化、教員研修の推進
	感染症対策の徹底、感染しない・させない意識と行動を身に付けた生徒を育成する。	日常的な感染予防の徹底、状況に応じた注意喚起の実施
(4) 特別活動	特別活動の一層の充実を図り、学校生活全体を通じて、自主自律的な行動のできる生徒を育成する。	生徒が主体となる部活動・委員会活動・学校行事の推進、教員による適切なサポート体制の構築
(5) 広報募集対策	本校の魅力を様々な方法で発信し、入学希望者数の安定化と拡大を図る。	学校ホームページ随時及び計画的更新、ホームページレイアウトの一層の工夫、塾対象説明会・学校説明会での実施回数増、P R 力強化、学校見学者に対する受入態勢の整備、学校見学日数の増加（授業公開、課題研究発表会、学校行事）を目指す工夫
(6) 学校運営組織体制	企画調整会議、職員会議、各種会議の役割を明確化して計画的・効率的に運営し、決定事項を確実に学校経営に反映させる。	校内サーバーを用いた情報共有、確実な業務引継ぎ、経営企画室の経営参画
	教育目標を達成するための教育環境を整備する。	改築工事の計画的な実行、校内美化の推進、計画的な予算執行、同窓会・保護者との連携強化、既存設備の点検と安全管理
	教職員のライフ・ワーク・バランスを推進する。	ライフ・ワーク・バランスの推進を経営計画に位置付け、心身の健康を維持する。管理職による勤務時間管理及び相談、専門家による相談体制の充実